

科目名		コミュニケーション実践Ⅲ			
担当教員	佐藤 真司		実務授業の有無	×	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	<p>対面交流場面における「話す」行為において、相手の状況を正しく理解した上で、自分の意志を目的や場面に応じた適切な表現でわかりやすく示し、効果的に相手に伝えることを学ぶ。 コミュニケーション検定初級合格を目指すために、対策授業を行い、合格点に達しない者は補講を行う。対面授業で実施。</p>				
学習目標 (到達目標)	<p>周囲の人と「話す」こと、「聞く」ことによって円滑なコミュニケーションをとることができる。 コミュニケーション検定初級合格ができる。</p>				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	株式会社サーティファイ コミュニケーション検定公式ガイドブック&問題集				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	コミュニケーションを考える、目的に即して聴く		P2-9		
2	傾聴・質問する		P10-14		
3	目的を意識する、話を組み立てる		P15-22		
4	言葉を選び抜く		P23-29		
5	表現・伝達する		P30		
6	来客対応		P36-39		
7	電話対応		P40-43		
8	アポイントメント・訪問・挨拶		P44-48		
9	情報共有の重要性、チームコミュニケーション		P49-59		
10	接客・営業、クレーム対応		P60-71		
11	会議・取材・ヒアリング、面接		P72-82		
12	模擬問題		P84-99		
13	過去問題①		P100-115		
14	過去問題②		P116-131		
15	過去問題③		P132-148		
16	コミュニケーション検定				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
<p>成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。</p>			<p>コミュニケーション検定合格のために、毎回授業に出席する。</p>		
実務経験教員の経歴					

科目名		就職実務Ⅲ			
担当教員	佐藤 真司		実務授業の有無	×	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	毎日の生活を豊かに有意義に過ごすためにも、自分らしい生きがいややりがいを持って働くためにも、働く意義をしっかりと理解した上で就職活動を進めていく。 身だしなみセミナー、求職登録面接、就職研修、インターンシップを通して、翌年(翌々年)の就職活動を意識する。 実施。対面授業で				
学習目標 (到達目標)	就職活動の心構えと流れを知ることができる。 自分と職業を理解することができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナルプリント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	これからどう生きていくか、一生でどのくらい稼げるのか、どんな生活を送りたいか、社会はどんな人材を求めているのか		プリント		
2	チャンスを逃がさない、働く理由を考える		プリント		
3	伝わる文章の書き方、相手を納得させる論理力、構成を考える		プリント		
4	自己PRのネタを探す、自己PRの骨格をつくる、説得力のある自己PRをつくる		プリント		
5	BtoBとBtoCの違いを知る、業界について考える、職種について考える		プリント		
6	求職登録面接とは何か、求職票作成の仕方、インターンシップとは何か、インターンシップ申込書作成の仕方		プリント		
7	求職票作成、自己PR作成、面接練習①		個別作業		
8	求職票作成、自己PR作成、面接練習②		個別作業		
9	求職票作成、自己PR作成、面接練習③		個別作業		
10	身だしなみセミナー、求職登録面接		女子メイクセミナー、男子身だしなみセミナーを受講 求職登録面接を受ける		
11	インターンシップ履歴書作成の仕方		プリント		
12	企業研究の仕方、志望動機の書き方		プリント		
13	履歴書作成、志望動機作成①		個別作業		
14	履歴書作成、志望動機作成②		個別作業		
15	インターンシップ日誌の作成の仕方、身だしなみについて		プリント		
16	就職研修		インターンシップに向けての心構えと問題事例、また今後の就職活動に向けての心構えを学ぶ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。			書類作成や面接練習をすることもあるので、毎回授業に出席し、提出物などの遅れがないようにする。面接練習は必ず事前に準備しておくこと。		
実務経験教員の経歴					

科目名		水槽管理実習Ⅲ			
担当教員	佐藤 真司		実務授業の有無	○	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	水槽メンテナンスの手順を考え、自主的に水槽管理ができるようになる。 学内外の水槽管理を行う。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	各水槽の問題点を自ら判断し、適切な水槽メンテナンスができる。				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	オリジナルプリント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
2	「アンドクリエイト」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
3	「新潟市どうぶつふれあいセンター」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
4	「新潟中央自動車学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
5	「笹口小学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
6	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
7	「アンドクリエイト」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
8	「新潟市どうぶつふれあいセンター」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
9	「新潟中央自動車学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
10	「笹口小学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
11	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
12	「アンドクリエイト」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
13	「新潟市どうぶつふれあいセンター」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
14	「新潟中央自動車学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
15	「笹口小学校」水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
16	学内水槽管理		グループに分かれて指定された水槽のメンテナンスを行う。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		観賞魚販売店で販売スタッフとして4年勤務			

科目名 水族飼育実習 I					
担当教員	澁谷 こず恵		実務授業の有無	○	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	海水水槽の管理を学ぶ。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	水槽管理の基本的な技術を身に付けている。 海水水槽の立ち上げ、海水魚の淡水浴を実施でき、手順を他人に説明できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナルプリント				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	水槽台組み立て		個人水槽の器具セッティングを行う		
2	水槽設置、ガーデンマットのカット		個人水槽の器具セッティングを行う		
3	器具設置		個人水槽の器具セッティングを行う		
4	フィルターセット		個人水槽の器具セッティングを行う		
5	水槽に水を入れ稼働		個人水槽の器具セッティングを行う		
6	ライブロックを入れる		個人水槽のセッティングを行う		
7	パイロットフィッシュの導入		パイロットフィッシュについて学ぶ		
8	水槽管理①		コケ取りや換水を実施		
9	水槽管理②		コケ取りや換水を実施		
10	水槽管理③		コケ取りや換水を実施		
11	水槽管理④		コケ取りや換水を実施		
12	水槽管理⑤		コケ取りや換水を実施		
13	水槽管理⑥		コケ取りや換水を実施		
14	水槽管理⑦		コケ取りや換水を実施		
15	水槽管理⑧		コケ取りや換水を実施		
16	フィルター掃除		フィルターの掃除		
17	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
18	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
19	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
20	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
21	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
22	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
23	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
24	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
25	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
27	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
28	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
29	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
30	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
31	水槽管理		コケ取りや換水を実施		
32	後期末試験		後期授業の総まとめ		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水族館で展示スタッフとして12年勤務			

科目名		水族飼育理論 I			
担当教員	鈴木 倫明	実務授業の有無	○		
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	前期前半
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	水族館設備の名称や仕組みについて、理解する。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	現場の見学や、実際の現場で就業する際に所見で種類・構造の把握ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	海水魚2500図鑑、クラゲ大図鑑、新・飼育ハンドブック1～6、はじめてのマリンアクアリウム				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	水槽の材質	座学			
2	ディスプレイ材料、素材物質	座学			
3	照明(太陽光、蛍光灯、HID、LED)	座学			
4	水族館での海水取水	座学			
5	海水処理の方法、パイプのメンテナンス	座学			
6	ろ過の前処理(沈殿、プロテインスキマー、凝集剤注入)	座学			
7	水族館のろ過装置圧力式	座学			
8	重力式の仕組み	座学			
9	逆洗、マッドボール	座学			
10	配管設備、海獣類のろ過(薬品注入)	座学			
11	熱交換器	座学			
12	ボイラー	座学			
13	冷却器、フロー	座学			
14	排水処理	座学			
15	まとめ	座学			
16	試験	座学			
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
31					
32					
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		構造の理解をより深めるため、作図の支持する試験を実施する。			
実務経験教員の経歴		水族館元館長			

科目名		海洋保全論			
担当教員	石田 義成		実務授業の有無	○	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	後期後半
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	海洋汚染の大半が故意や取扱不注意等による人為的な要因により発生していることを知り、海洋汚染を防止し、海洋環境を保全する基本原理を学ぶ 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	海洋生物の保全における現状・問題点・対策について学ぶ。海洋保全ために必要な海洋環境や海洋生物保護管理の知識を習得することを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	海洋の基礎生産(オキアミ資源)		座学		
2	南極・北極の環境とオキアミとの関係-1(アイスアルジー)		座学		
3	南極・北極の環境とオキアミとの関係-2(湧昇流)		座学		
4	海洋循環(海洋ベルトコンベアー)		座学		
5	エルニーニョ、ラニーニャと海洋環境		座学		
6	地球温暖化が海洋環境に及ぼす影響		座学		
7	潮汐と海洋生物の行動		座学		
8	海洋の音環境と鯨類		座学		
9	海洋における騒音問題		座学		
10	海洋におけるゴミ問題		座学		
11	海洋汚染問題		座学		
12	海洋動物の保護活動-1		座学		
13	海洋動物の保護活動-2		座学		
14	海洋動物の保護活動-3		座学		
15	期末試験		座学		
16	試験問題の解答および解説		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		近畿大学講師			

科目名	魚類概論 I				
担当教員	石田 義成		実務授業の有無	○	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	前期後半
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	魚類は呼吸・血液・消化・内分泌・感覚など独自の生理作用を営むものが多い。初学者の理解を深めるため生理学の基本項目から魚類の生理特異性などについて学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	魚類の体のしくみについての基礎知識を習得する。水族館やショップなどの仕事に役立つ人材になるために必要な知識を学ぶことを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「魚学入門」恒星社厚生閣				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	魚類概論の概要を紹介		座学		
2	魚類の外部形態的特徴-1		座学		
3	魚類の外部形態的特徴-2		座学		
4	魚類の外部形態の測定-1		座学		
5	魚類の外部形態の測定-2		座学		
6	魚類の外部形態の測定-3		座学		
7	魚類の分類体系-1		座学		
8	魚類の分類体系-2		座学		
9	魚類の分類体系-3		座学		
10	マリンピア日本海の見学実習		施設見学		
11	無顎類-1		座学		
12	無顎類-2		座学		
13	無顎類-3		座学		
14	臨海実習		座学		
15	期末試験		座学		
16	試験問題の解答及び解説		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴	近畿大学講師				

科目名	水生動植物実験 I				
担当教員	石田 義成		実務授業の有無	○	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	河川、湖沼、地下水、海洋などの水域に生息する水中あるいは水界に密接に依存して生活する動物について学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	無脊椎動物・魚類・イルカの体のしくみを理解する。水族館において飼育されている動物達の体構造をすることにより、これら動物達の飼育に必要な基礎的知見を得ることを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	魚類外部形態-1(鱗)		講義、授業内容に応じた作業		
2	魚類外部形態-2(スケッチ)		講義、授業内容に応じた作業		
3	魚類外部形態-3(スケッチ)		講義、授業内容に応じた作業		
4	魚類外部形態-4(体成分測定)		講義、授業内容に応じた作業		
5	魚類外部形態-5(アジの体成分測定とスケッチ)		講義、授業内容に応じた作業		
6	イルカ外部形態(体成分測定とスケッチ)		講義、授業内容に応じた作業		
7	マリンピア日本海見学実習		講義、授業内容に応じた作業		
8	魚類内部形態-1(胴体骨格)		講義、授業内容に応じた作業		
9	魚類内部形態-2(頭部骨格)		講義、授業内容に応じた作業		
10	魚類内部形態-3(耳石)		講義、授業内容に応じた作業		
11	魚類内部形態-4(消化器官)		講義、授業内容に応じた作業		
12	魚類内部形態-5(生殖腺)		講義、授業内容に応じた作業		
13	臨海実習の説明・準備		講義、授業内容に応じた作業		
14	臨海実習		講義、授業内容に応じた作業		
15	前期試験(実習レポート提出)		講義、授業内容に応じた作業		
16	フィードバック		講義、授業内容に応じた作業		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			近畿大学講師		

科目名		海洋哺乳類概論			
担当教員	石田 義成		実務授業の有無	○	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	海洋哺乳類の種の特性、ストランディングや混獲、年齢・性別査定、外部計測法等について基本事項を学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	海洋哺乳類についての基礎知識を学ぶ。水族館飼育員として必要な知識を習得することを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	海洋哺乳類概論の概要を紹介		座学		
2	海洋哺乳類の分類		座学		
3	鯨脚類の生物学的特性-1		座学		
4	鯨脚類の生物学的特性-2		座学		
5	鯨脚類の生物学的特性-3		座学		
6	海牛類の生物学的特性-1		座学		
7	海牛類の生物学的特性-2		座学		
8	海牛類の生物学的特性-3		座学		
9	ラッコ・カワウソの生物学的特性		座学		
10	鯨偶蹄類の生物学的特性-1		座学		
11	鯨偶蹄類の生物学的特性-2		座学		
12	水族館での飼育方法-1		座学		
13	水族館での飼育方法-2		座学		
14	水族館での飼育方法-3		座学		
15	期末試験		座学		
16	試験問題の解答および解説		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		近畿大学講師			

科目名	生物統計学				
担当教員	石田 義成		実務授業の有無	○	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	データをPowerPointとExcelに入力し生物統計学における処理方法、考え方を学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	PowerPointとExcelを用いて生物統計学の基本を理解する。実験データの統計処理の考え方および方法を習得することを目標とする。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	「魚学入門」恒星社厚生閣				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	生物統計におけるPowerPointの使用方法		座学		
2	生物統計におけるExcelの使用方法		座学		
3	Excelでの立体図形の描画方法		座学		
4	Excelでの日本海海底地形の描画方法		座学		
5	Excelでの日本海の体積(水量)の計算方法		座学		
6	前期試験(課題提出)		座学		
7	まとめ・復習		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			近畿大学講師		

科目名		行動の原理			
担当教員	加藤 治彦		実務授業の有無	○	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	後期に始まるトレーナートレーニング I の理論分野。主にオペラント条件付けを扱い水族館等で飼育されている海獣類のトレーニングにおける背景(理論)を学ぶ。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	オペラント条件付け、レスポナント条件付け、消去、般化と弁別など、学習における基本的な理論を学ぶ。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナル教材、新飼育ハンドブック5水族館編				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	オペラント条件付け(強化)		座学		
2	正の強化		座学		
3	負の強化		座学		
4	オペラント条件付け(弱化)		座学		
5	正の弱化		座学		
6	負の弱化		座学		
7	レスポナント条件付け		座学		
8	般化と弁別		座学		
9	脱感作		座学		
10	シェイピング		座学		
11	ハズバンドガリートレーニング		座学		
12	現代社会における強化		座学		
13	シェイピングゲーム		座学		
14	フィッシュトレーニング概要		座学		
15	期末試験対策		座学		
16	期末試験				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			水族館元館長		

科目名		海洋学			
担当教員	鈴木 倫明		実務授業の有無	○	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	16
授業概要、目的、授業の進め方	各講義ごとに「海洋の断面構造」や「水の性質」等のテーマを決定し、海洋に関するより深い理解を構築する。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	海洋を取り巻く環境を理解し、自然現象原因を説明できる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	海洋の断面構造		座学		
2	海の物理現象(気象、海象)について		座学		
3	水の性質		座学		
4	気圧と水圧		座学		
5	光の散乱と吸収		座学		
6	緯度、経度について		座学		
7	光の三原色		座学		
8	赤外線、可視光線、紫外線		座学		
9	温室効果		座学		
10	風		座学		
11	波		座学		
12	海流		座学		
13	台風		座学		
14	梅雨		座学		
15	日本海の豪雪		座学		
16	期末試験対策		座学		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水族館元館長			

科目名		トレーナートレーニング I			
担当教員		澁谷 こず恵		実務授業の有無	○
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	行動の原理の授業内容をベースにしながら魚のトレーニングを通して水族館等で飼育されている海獣類のトレーニングの実践基礎を学ぶ。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	スモールステップの原理や脱感作の技術を用いて、力では制御できない生物にハズバンダリートレーニングを実施する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	うまくやるための強化の原理(二瓶社)、オリジナル教材				
回数	授業項目、内容	学習方法・準備学習・備考			
1	選魚、チーム分け、目標行動の設定	トレーニングフィッシュを使った実習			
2	2年生から1年生へ引継ぎ	トレーニングフィッシュを使った実習			
3	魚のトレーニングとイルカのトレーニングの共通点	トレーニングフィッシュを使った実習			
4	トレーニング継続・管理	トレーニングフィッシュを使った実習			
5	トレーニング継続・管理	トレーニングフィッシュを使った実習			
6	トレーニング継続・管理	トレーニングフィッシュを使った実習			
7	トレーニング継続・管理	トレーニングフィッシュを使った実習			
8	トレーニング継続・管理	トレーニングフィッシュを使った実習			
9	トレーニング継続・管理	トレーニングフィッシュを使った実習			
10	進捗状況報告(1回目)及びフィードバック	トレーニングフィッシュを使った実習			
11	トレーニング継続・管理	トレーニングフィッシュを使った実習			
12	トレーニング継続・管理	トレーニングフィッシュを使った実習			
13	トレーニング継続・管理	トレーニングフィッシュを使った実習			
14	トレーニング継続・管理	トレーニングフィッシュを使った実習			
15	進捗状況報告(2回目)及びフィードバック	トレーニングフィッシュを使った実習			
16	レポート提出	トレーニングフィッシュを使った実習			
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水族館で展示スタッフとして12年勤務			

科目名		海獣類飼育理論 I			
担当教員	今井健介		実務授業の有無	○	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	給餌、病気、繁殖、輸送等、生物飼育に関わる知識や見識を得る。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	海獣類の飼育方法を知る				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	新・飼育ハンドブック水族館編(1～2)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	繁殖(総論)		座学		
2	繁殖(鯨類)		座学		
3	繁殖(鯨類)		座学		
4	繁殖(鯨類)		座学		
5	繁殖(鯨類)		座学		
6	繁殖(鰭脚類)		座学		
7	繁殖(鰭脚類)		座学		
8	繁殖(鰭脚類)		座学		
9	繁殖(鰭脚類)		座学		
10	繁殖(裂脚類)		座学		
11	繁殖(裂脚類)		座学		
12	繁殖(海牛類)		座学		
13	繁殖(海牛類)		座学		
14	繁殖まとめ		座学		
15	期末試験		座学		
16	まとめ				
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水族館で海獣トレーナーとして8年勤務			

科目名		海洋生物概論 I			
担当教員		鈴木 倫明		実務授業の有無	○
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	4	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	海洋生物の行動や生態、水族の環境保全、海の生物資源の活用等を学ぶ。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	海洋生物の生息する生態系を、地形から理解する。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本の海水魚、海辺の生き物				
回数	授業項目、内容			学習方法・準備学習・備考	
1	学名、和名、属名、英名 学名のルール			座学	
2	軟骨魚綱(サメの仲間)			座学	
3	軟骨魚綱(エイの仲間)			座学	
4	ヌタウナギ綱(ヌタウナギ)、硬骨魚綱(シーラカンス目、ウナギ目、ナマズ目、ニシン目)			座学	
5	硬骨魚綱(キュウリウオ目、ヒメ目、アカマンボウ目、タラ目、アンコウ目)			座学	
6	硬骨魚綱(ダツ目、ボラ目、トウゴロウイワシ目、キンメダイ目、マトウダイ目、トゲウオ目)			座学	
7	スズキ目(メバル科、フサカサゴ科、ハオコゼ科、オニオコゼ科、ホウボウ科、コチ科、スズキ科、ハタ科)			座学	
8	スズキ目(アゴアマダイ科、アマダイ科、テンジクダイ科、アジ科、ヒラギ科、タカサゴ科)			座学	
9	スズキ目(イサキ科、コバンザメ科、シイラ科、タイ科、イトヨリダイ科、フエダイ科、ヒメジ科、ニベ科、キス科、ヒメツバメウオ科、ハタンボ科)			座学	
10	スズキ目(チョウチョウウオ科、キンチャクダイ科、ゴンベ科、シマイサキ科、ウミタナゴ科、スズメダイ科)			座学	
11	スズキ目(メジナ科、インダイ科、タカベ科、カゴカキダイ科、マナガツオ科、ベラ科、ブダイ科、アイナメ科、ハタハタ科、カジカ科)			座学	
12	スズキ目(ダンゴウオ科、ゲンゲ科、オオカミウオ科、シミマオコゼ科、ヘビギンボ科、コケギンボ科、イソギンボ科、ウバウオ科、ネズツボ科、ハゼ科)			座学	
13	スズキ目(マンジュウダイ科、ニザダイ科、マカジキ科、カマス科、タチウオ科、サバ科)			座学	
14	カレイ目、フグ目			座学	
15	期末試験			座学	
16	まとめ			座学	
評価方法・成績評価基準				履修上の注意	
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴				水族館元館長	

科目名		水生生物研究 I			
担当教員	鈴木 倫明		実務授業の有無	○	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	後期
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	新潟市の海岸や鳥屋野潟などフィールドで、四季ごとの変わる環境や生物層の変化を、生物採集や観察を通して理解する。但し、悪天候等の場合はマリニピア日本海の館内生物や種の検索を実施して学習する。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	水生生物の生息域や生息環境の理解。生体の同定ができる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	日本産魚類検索図鑑全種の同定第三版、日本クラゲ大図鑑、日本の淡水魚・海水魚				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
17	新潟市水族館マリニピア日本海の年間パスポート登録		水族館内の一室で、検索図鑑を用いて論理的に種を特定し学習する。		
2	日和山海岸にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
3	鳥屋野潟にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
4	日和山海岸にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
5	マリニピア日本海にて、採集生物の種の同定をする。		水族館内の一室で、検索図鑑を用いて論理的に種を特定し学習する。		
6	日和山海岸にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
7	鳥屋野潟にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
8	日和山海岸にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
9	マリニピア日本海にて、採集生物の種の同定をする。		水族館内の一室で、検索図鑑を用いて論理的に種を特定し学習する。		
10	日和山海岸にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
11	鳥屋野潟にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
12	日和山海岸にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
13	マリニピア日本海にて、採集生物の種の同定をする。		水族館内の一室で、検索図鑑を用いて論理的に種を特定し学習する。		
14	日和山海岸にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
15	鳥屋野潟にて生物採集。		季節ごとに変化する、採取生物の種類や個体数を記録を続ける。		
16	これまでの採集・観察のまとめ。		これまでの総括をし、再確認をする。		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			水族館元館長		

科目名	スイムトレーニング I				
担当教員	アルススイミングクラブ		実務授業の有無	○	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	前期
必修・選択	必修	単位数	1	時間数	32
授業概要、目的、授業の進め方	近隣のプール施設を利用し、泳力レベルに応じてチーム分けを行い学生それぞれがその日の課題に取り組む。 対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	水族館就職における必要最低条件、潜水25m＋自由形50mをクリアする				
テキスト・教材・参考 図書・その他資料	オリジナル教材				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	基本型のマスター		プールでのトレーニング		
2	タイム計測、チーム分け		プールでのトレーニング		
3	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
4	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
5	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
6	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
7	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
8	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
9	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
10	タイム計測、チーム分け		プールでのトレーニング		
11	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
12	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
13	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
14	各チームで個々の練習実施		プールでのトレーニング		
15	タイム計測測定		プールでのトレーニング		
評価方法・成績評価基準			履修上の注意		
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴			企業へ委託		

科目名		水族館運営 I			
担当教員	澁谷 こず恵		実務授業の有無	○	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	3	時間数	48
授業概要、目的、授業の進め方	水族館の教育や運営方法について学びWaN水族館の運営に繋げる。対面授業で実施。				
学習目標 (到達目標)	WaN水族館の企画、運営				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	新・飼育ハンドブック1～5				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	動物園・水族館の役割		座学		
2	水族館の教育①		座学		
3	水族館の教育②		座学		
4	水族館の教育③		座学		
5	水族館の教育④		座学		
6	水族館の教育⑤		座学		
7	水族館の展示①		座学		
8	水族館の展示②		座学		
9	水族館の展示③		座学		
10	水族館の展示④		座学		
11	水族館の展示⑤		座学		
12	動物園の教育①		座学		
13	動物園の教育②		座学		
14	動物園の教育③		座学		
15	動物園の教育④		座学		
16	動物園の展示①		座学		
17	動物園の展示②		座学		
18	動物園の展示③		座学		
19	動物園の展示④		座学		
20	WaN水族館準備①		座学		
21	WaN水族館準備②		座学		
22	WaN水族館準備③		座学		
23	WaN水族館準備④		座学		
24	試験		座学		
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
実務経験教員の経歴		水族館で展示スタッフとして12年勤務			

科目名		英語・英会話 I			
担当教員	平石 理恵		実務授業の有無	×	
対象学科	海洋生物・アクアリウム	対象学年	3	開講時期	通年
必修・選択	必修	単位数	2	時間数	64
授業概要、目的、授業の進め方	英語をコミュニケーション・ツールの一つとして認識し、それを使って楽しむことができる				
学習目標 (到達目標)	家族や仕事のことなど日常的に使われる表現を理解し、情報交換ができるようになる。				
テキスト・教材・参考図書・その他資料	スタディサプリ日常英会話(リクルート)				
回数	授業項目、内容		学習方法・準備学習・備考		
1	自分の将来の希望や過去の行動について、目的を明らかにして話すことができる。		スタディサプリ日常英会話1～5		
2	自分の不安・恐れについて表現することができる		スタディサプリ日常英会話6～10		
3	ある出来事を受けた自分の気持ちを表現することができる		スタディサプリ日常英会話11～15		
4	仮定の条件を付けて話すことができる		スタディサプリ日常英会話16～20		
5	日本の観光地についてたずねたり話したりできる(There is/are)		スタディサプリ日常英会話21～25		
6	相手の状況を見て声をかけたり、援助を求めたりできる		スタディサプリ日常英会話26～30		
7	いろいろな国の地理・気候情報を説明することができる		スタディサプリ日常英会話31～35		
8	やるべきことをやったかどうかたずねたり、答えたりできる		スタディサプリ日常英会話36～40		
9	行ったことのある場所(都市、国)について話したり、たずねたりできる		スタディサプリ日常英会話41～45		
10	継続している(クラブ)活動などについて話せる		スタディサプリ日常英会話46～50		
11	日本の伝統行事や伝統文化について説明することができる		スタディサプリ日常英会話51～55		
12	これまでの人生であった印象的な体験について話すことができる		スタディサプリ日常英会話56～60		
13	驚きなどの感情を強調して表現することができる		スタディサプリ日常英会話61～65		
14	久しぶりに会った友人に、近況を伝えることができる		スタディサプリ日常英会話66～70		
15	筆記試験				
16	フィードバック				
17	過去の出来事を時系列で説明することができる		スタディサプリ日常英会話(英会話)71～75		
18	人にしてほしいと思っていることについて話せる		スタディサプリ日常英会話(英会話)76～80		
19	人やものについて簡単に説明を加えることができる		スタディサプリ日常英会話(英会話)81～85		
20	誘いを断ることができる		スタディサプリ日常英会話(英会話)86～90		
21	人の特徴や性格、功績について描写・説明ができる		スタディサプリ日常英会話(英会話)91～95		
22	(口論で)人お意見をぶつけ合うことができる		スタディサプリ日常英会話(英会話)96～100		
23	知っている人やもらったものについて描写・説明ができる		スタディサプリ日常英会話(英会話)101～105		
24	人から情報提供されたものについてたずねたり、説明したりできる		スタディサプリ日常英会話(英会話)106～110		
25	駅やバス停で乗り換え案内ができる		スタディサプリ日常英会話(英会話)111～115		
26	やり方をたずねたり、説明したりできる		スタディサプリ日常英会話(英会話)116～120		
27	必要な情報をたずねることができる Do you know when to do this?		スタディサプリ日常英会話(英会話)121～125		
28	確かなこと、不確かなことについて述べたり、予測したりできる		スタディサプリ日常英会話(英会話)126～130		
29	小数点や分数を使った数字情報を述べるができる		スタディサプリ日常英会話(英会話)131～135		
30	色々な表現で道や方向をたずねることができる		スタディサプリ日常英会話(英会話)136～140		
31	相手や自分の意図を確認したり、述べたりできる		スタディサプリ日常英会話(英会話)141～145		
32	期末試験(課題)				
評価方法・成績評価基準		履修上の注意			
成績評価基準は、S(95点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。		1年次の授業を踏まえてより実践的な授業になる			
実務経験教員の経歴					